

# 繪はがき

堀辰雄

青空文庫



一九三〇年八月十七日、K村にて

僕がホテルのベッドに横になつて、讀書をしてゐたら、窓から、向日葵の奴がしきりにそれをのぞきこむのだ。

どうもうるさくつてしかたがない。

そこで僕は立ち上つていつて、窓をしめてきてやつた。

うすぐらくなる。本なんか讀んでゐるよりは晝寢にもつてこいだなと思つてゐると、……いつのまにか僕はすこし眠つてしまふ。

やがて僕は目をさます。窓を開けにゆく。さつきの向日葵は怒つたやうに向うむきになつてゐる。

どれ、ひとつ散歩でもしてこよう。……

向日葵めは、その下を僕が通り過ぎても、知らん顔をしてゐるので、僕がステツキの先でこづいてやつたら、今度はほんとに怒つて、僕に平手打をしようとする。——と思つたのは、僕の錯覺だつた。實は、その瞬間まで、そいつにかじりついて花粉まみれになつて

ゐた蜜蜂の奴が、いきなり飛び立つて、僕に襲ひかかったのだ。

そいつから逃げ　　つてゐるうちにすつかり僕まで花粉まみれになつて、さて氣がついて見ると、僕は道に迷つてゐた。

だが、心配しないでいい。そら、そこに立札がある。――

### Way to Town

### Way to Station

僕はとにかく町へ出かけることにする。

空には、一めんに、壘の破片かけらが散らばつてゐる。そいつがきらきら光つてゐる。どうも、頭の上へ落つこちて來さうで、あぶなくつていけない。

おや、どこかでシヤンパンを抜いてゐるな。

なんだ、テニスをしてゐるのか……。

そのテニス・コオトの裏の草むらでは、西洋人が二人、ボオルを熱心にさがしてゐる。すると子供たちが走つてきて、一しよに搜してやつてゐるらしい。そのうち西洋人たちはあきらめて行つてしまふ。

すると子供たちは彼等を見送りながら赤い舌を出した。そして一人がふところから白いボールを取り出した。

「ここにも立札がしてある。

——曰く、「球<sup>ロスト</sup>不<sup>ボオル</sup>知<sup>レエン</sup>徑」。

それから「本<sup>メ</sup>町<sup>エン</sup>通<sup>スト</sup>り」に出る。

そこは氷と花とレスで飾られてある。蝶が骨董店の中に飛び込んで、支那の皿の上にとまる。するとお客がそれを模様かしらと見ちがへる。郵便局では、電信機がどもつてゐる。鶏肉屋の前を、西洋婦人が七面鳥の眞似をして通る。

僕は繪はがき屋の中にはいつて、見て、一枚も買はないで出る。

ここからが「水<sup>ウオタ</sup>車<sup>アウイル</sup>の<sup>レエン</sup>道」

だが今は名前ばかりで、水車なんか何處にも見えぬ。

四五年前、まだそのあつた時分は、よく栗鼠がきて、いたづらをするので、こまつたさうだ。

それから少し行くと「<sup>フォレスト</sup>森 <sup>レエン</sup>小路」になる。

その徑の入口に、たくさん羊齒の生えてゐる、見るからに古びた別荘がある。ひよいと表札を見ると、「アンデルセン」。——なんだか家の中から、オルガンと合唱の音でも聞えて來さうだな……

だが、僕はもつと驚いた。その隣りの別荘の、表札を見ると、まさしく「グリム」。——いくら目をこすつても、やつぱりさう書いてある。これでは、いやでも應でも僕は夢見心地にさせられてしまふ。僕の籐のステッキがまづ魔法の杖といふところ。これで觸つたら、小鳥だらうが、花だらうが、木の枝だらうが、みんなお喋舌りをしはじめさうである。僕はそつとステッキを小脇にかくす。

なにしろ海拔三千尺の高さだ。空氣もだいぶ稀薄らしい。そのせゐか、空氣に皺があつて、ある部分は妙に温かで、ある部分は妙につめたい。それがますます僕を妖精化するに役立つのである。

僕は次第に目まひがする。なんだかクロロフォルムを嗅がされてゐるやうである。僕の腕からステッキが滑り落ちるが、それを知つてゐながらどうすることも出来ない。僕の全身は無感覺であるのに、ふしぎなことに周圍の風景だけははつきりと見えるのだ。身體が

ふらふらしてくる。どうやら僕の足はもう地面についてゐないらしい。

おお、僕は飛んでゐる！ 飛んでゐる！ ……



# 青空文庫情報

底本：「堀辰雄作品集第四卷」筑摩書房

1982（昭和57）年8月30日初版第1刷発行

初出：「週刊朝日 第十八巻第十六号」

1930（昭和5）年10月5日

入力：tatsuki

校正：染川隆俊

2011年3月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 繪はがき

堀辰雄

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>